

令和3年度

小松島小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態を正しく把握し、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 深い学びの実践に向け、状況に応じて学習指導法の工夫と改善を行う。
- GIGAスクール構想を活用した新しい教育スタイルの導入を図る。

学力向上検討委員会構成

| | | | |
|----------|------|--------------|-------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 | 濱田 哲也 |
| 教諭 神崎 素子 | 教頭 | 西 健治 | |
| (研修主任) | 教諭 | 廣田 美由紀(教務主任) | |
| | 養護教諭 | 小泉 加余子 | |

校長

濱田 哲也

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【取組状況の把握について】

校内研修による共通理解等様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---------|----------|-------------|
| ○国語科「漢字の読み書き」や、算数科「数と計算」については力が伸びてきている。また与えられた課題についてまじめに取り組む児童が多い。 ●知識・技能の習得には個人差が多く見られる。また、問題を読み取る力に課題が見られる。 | ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、「複数単元のまとめのテスト」で80点以上とることができる。 ・文章や問題文を正確に読み取り、正しく理解することができる。 | ・朝のジャンプアップタイムでは、既習内容の反復練習や発展問題を入れた課題に継続して取り組むようにする。 ・何が書かれているかを捉えさせるために、教科書や新聞などにアンダーラインや囲みを入れて読むことができるようにする。 ・読書環境を整え、読書に親しむことで語彙を増やすことができるようにする。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|---------|----------|-------------|
| ○基本的な話型を見たり事前に原稿を書いたりして見通しをもつと、自分の考えや思いを発表することができる。 ●課題に応じて必要な情報や資料を取り入れたり課題解決に向けて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。 | ・目的に応じて根拠や理解を明らかにしながら自分の考えを分かりやすく話したり書いたりすることができる。 ・タブレット端末を利用し、必要な情報や資料を取り入れたり、自分の考えをまとめたりすることができる。 | ・付箋・ホワイトボード・ICTを活用し、友達と自分の考えを比較したり、参考にしたりし、自分の思いや考えを深めることができるようにする。 ・授業のめあてを明確にし、学んだことを振り返る時間を確保し、達成感と課題意識をもつようにする。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(めざす子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|--|---------|----------|-------------|
| ○多くの児童が落ち着いて学習に取り組む、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●自ら課題を設定し、主体的に取り組める児童が少ない。 | ・基本的な生活習慣を身に付けて生活することができる。 ・自ら学習課題を見つけ、家庭学習や自主学習に主体的に取り組むことができる。 ・学校生活をよりよくしようと主体的に考え行動することができる。 | ・年3回定期的継続的に生活チェックを行い、よりよい生活習慣を身に付けることができるよう家庭と協力していく。 ・思考ツールを活用したり、様々な学習形態を取り入れることで、自らの課題を追求できるようにする。 ・代表委員会や学級会など話し合い活動を行う。 | | | |

令和3年度 学力向上ロードマップ

